鉄道博物館 2018秋 企画展

貨物ステーション カモツのヒ・ミ・ツ

2018年10月20日(土)
▼
2019年 2月24日(日)

鉄道博物館
THE RAILWAY MUSEUM

電車も入館も※お食事もお買い物も。

Suicaで、鉄道博物館へ。

※Suicaは東日本旅客鉄道株式会社の登録商標です。お手持ちのSuicaのチャージ残額であらかじめ入館料をお支払のうえ、Suicaをタッチしてご入館ください。モバイルSuicaもご利用いただけます。

JR東日本

鉄道博物館 2018秋 企画展

貨物ステーション カモツのヒ・ミ・ツ

2018年10月20日(土)
▼
2019年 2月24日(日)

朝に読んだ新聞の紙、昼に食べたカレーライスのじゃがいも、夜に飲んだビール…。
それらは貨物列車で皆さんのところに運ばれてきたのかもしれません。
私たちの生活に身近なものを運んでいますが、その実態を知る機会の少ない
「鉄道貨物輸送」。今回の展示では、様々な写真や資料で、システム化が進んだ
鉄道による貨物輸送の今の姿と、145年の長きにわたる歴史をご紹介します。

01 鉄道貨物輸送の特性

何両も連結された長い貨物列車を見たことがある方も多いでしょう。例えば、650トンの貨物列車でも、ひとりの運転士で運転できます。しかし、同じ量の貨物を10トントラックで運ぶ場合、65台のトラックに65人のドライバーが必要です。鉄道貨物輸送のメリットや、旅客輸送との違いを分かりやすくご紹介します。

【コンテナを満載した貨物列車】
JR貨物の貨物列車は、最大で26両のコンテナ貨車を連結でき、5トン積みのコンテナを130個、合計650トンの貨物をたった一人の運転士で輸送することが可能です。

02 鉄道貨物輸送の歴史

貨物列車の運行が始まったのは、新橋～横浜間に日本で初めての鉄道が開業した翌年の1873(明治6)年。最速の輸送機関だった鉄道は、都市生活を支える物資、エネルギー源である石炭、そして生糸に代表される輸出品などを輸送し、我が国の近代化を支え、輸送量を伸ばしました。しかし戦後のエネルギー転換は鉄道貨物輸送に大きな影響を与え、同時に自動車、高速道路の発展で、シェアを大きく落としました。現在の鉄道貨物輸送は、コンテナを使った大都市間の輸送を中心に担っています。こうした鉄道貨物輸送の歴史をひもときます。

【東京名所之内　新橋ステンション蒸汽車鉄道図】
鉄道による貨物輸送開始の頃の錦絵。貨物扱い所と貨車が描写されています。

03 貨物駅の様々な仕事と設備

駅を通過していく貨物列車を見ることはありますが、その列車がどこへ向かい、どこで貨物をおろしているのか、ご存知でしょうか？貨物を積みおろしする「貨物駅」があり、列車はそこへ向かっています。貨物駅では、多くの鉄道マンが安全、正確、迅速に貨物を届けるべく、最新のシステムを駆使して、連携しながら仕事をしています。普段見る機会のない貨物駅の仕事と設備を徹底紹介します。

貨車にコンテナを積みおろしするトップリフターという機械。オペレーターには高度の操縦技術が要求される。

運転士に無線で誘導指示を出す操車担当者。チームワークで動く貨物駅の様々な仕事の中心となる。

〈後援〉さいたま市、東日本旅客鉄道株式会社 〈協力〉日本貨物鉄道株式会社、株式会社トミーテック
©TOMYTEC

ご利用案内

開館時間　10:00～18:00(入館は17:30まで)

休 館 日　毎週火曜日、年末年始(12/29～2019/1/1)
※12/25の火曜日は開館します。

入 館 料　一般1,300円、小中高生600円、幼児(3歳以上未就学児)300円

アクセス　JR大宮駅よりニューシャトルにて「鉄道博物館駅」下車、徒歩1分
〒330-0852 埼玉県さいたま市大宮区大成町3丁目47番

ホームページ　www.railway-museum.jp/

鉄道博物館
THE RAILWAY MUSEUM